



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2025年3月期 第3四半期 スモールミーティング

2025年2月17日

SWCC株式会社

本日のアジェンダとスピーカー

1. 第3四半期決算概要
2. 中期経営計画の数値目標の見直し



代表取締役
COO 副社長執行役員
小又 哲夫

3. 通信・産業用デバイス事業の成長戦略



執行役員
通信・産業用デバイス事業セグメント長
井上 和彦

1 . 2024年度第3四半期決算概要

2024年度 第3四半期決算 概況

経営環境

- 脱炭素社会や半導体・デジタル関連需要に向けた投資拡大。
- 工事案件の年間平準化の動きは継続も、3 Qでは工事案件が集中。
- 自動車関連市場においては、一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止、中国での販売不振。
- 電線業界においては、電線全体の需要は微減。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同期より上昇。

売上高

エネルギー・インフラ事業の業績好調により、**前年同期比増収**。

【主な事業分野別状況】

エネルギー・インフラ・・・建設関連向けおよび電力インフラ向け**需要は好調**。

自動車・・・・・・・・・・xEV向け高機能製品の**需要は調整局面**。

通信ケーブル・・・・・・・・建設向けおよびADAS向け高速LANの**需要は堅調に推移**。

営業利益

建設関連向けおよび電力インフラ向け需要が**好調に推移し、前年同期比大幅に増益**。

2024年度 第3四半期連結業績 P/L

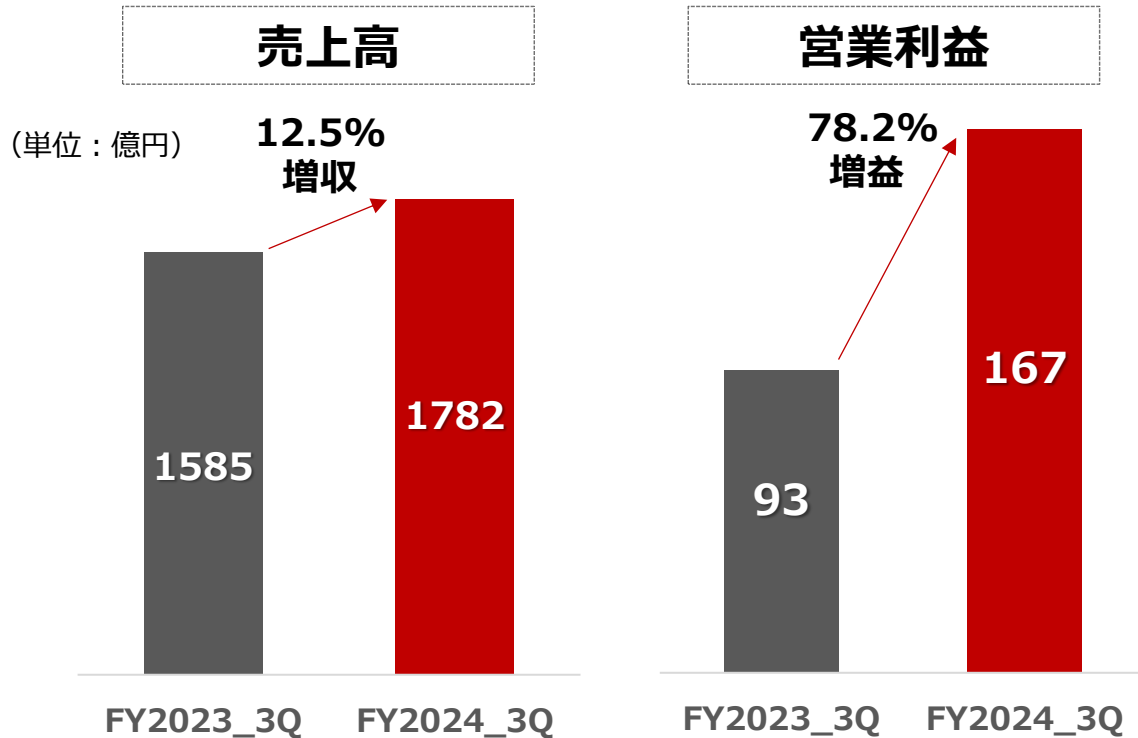
エネルギー・インフラ事業の業績が好調に推移し、今後も好調を維持すると見込むが、
持分法による投資損失および貸倒引当金繰入額を最大限計上し、**当期業績予想については経常利益を下方修正。**

(単位：億円)	2023年度 3Q実績	2024年度 3Q実績 (前年同期比%)	2024年度 通期計画 (修正前)	2024年度 通期計画 (修正後)	進捗率 %
売上高	1,585	1,782 (+12.5%)	2,340	2,340	76.2%
営業利益	93	過去最高 167 (+78.2%)	205	過去 最高益 を予定 205	81.3%
営業利益率 %	5.9%	9.3% (+3.4pt)	8.8%	8.8%	—
経常利益	92	71 (▲22.7%)	170	105	67.5%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	63	過去最高 77 (+22.5%)	100	過去 最高益 を予定 100	77.5%

2024年度 第3四半期決算のポイント

3Q前年同期比

エネルギー・インフラ事業の業績好調により、**大幅増益**。



3Q進捗率

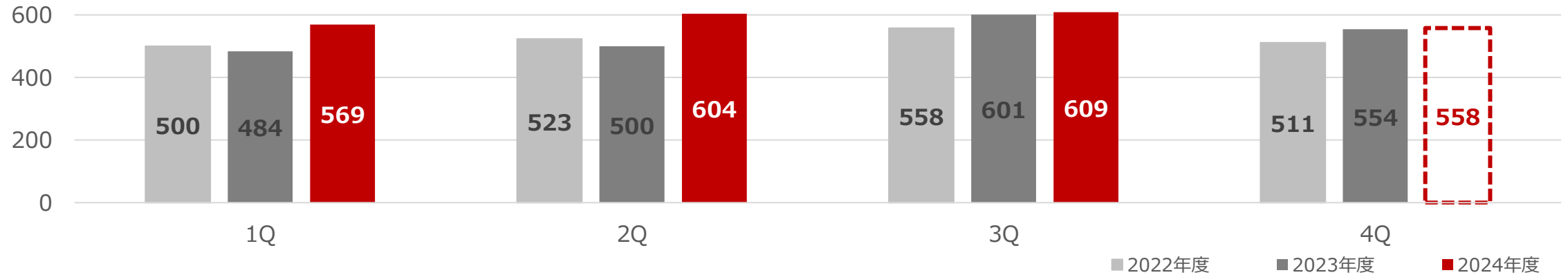
売上高・営業利益ともに例年より高い進捗。

(単位：億円)	通期計画	FY19-23 平均進捗率	3Q進捗率
売上高	2,340	74.1%	76.2%
営業利益	205	73.6%	81.3%

FY2022－2024 四半期ごとの業績推移

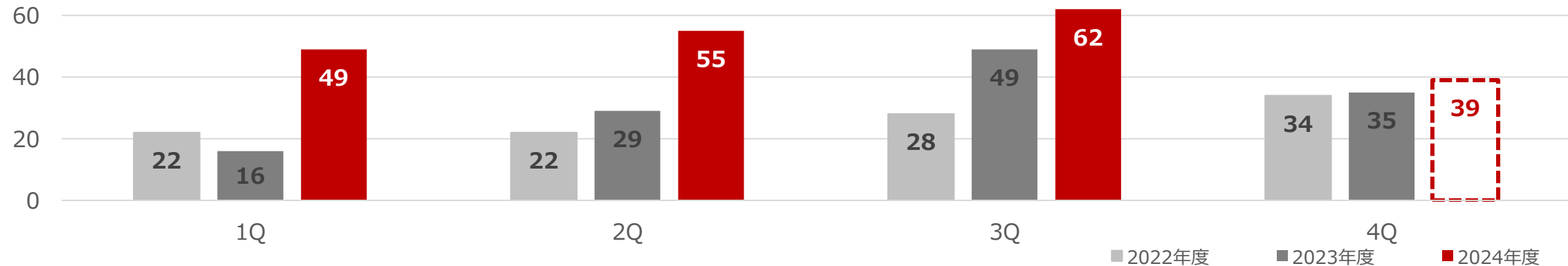
売上高

(単位：億円)



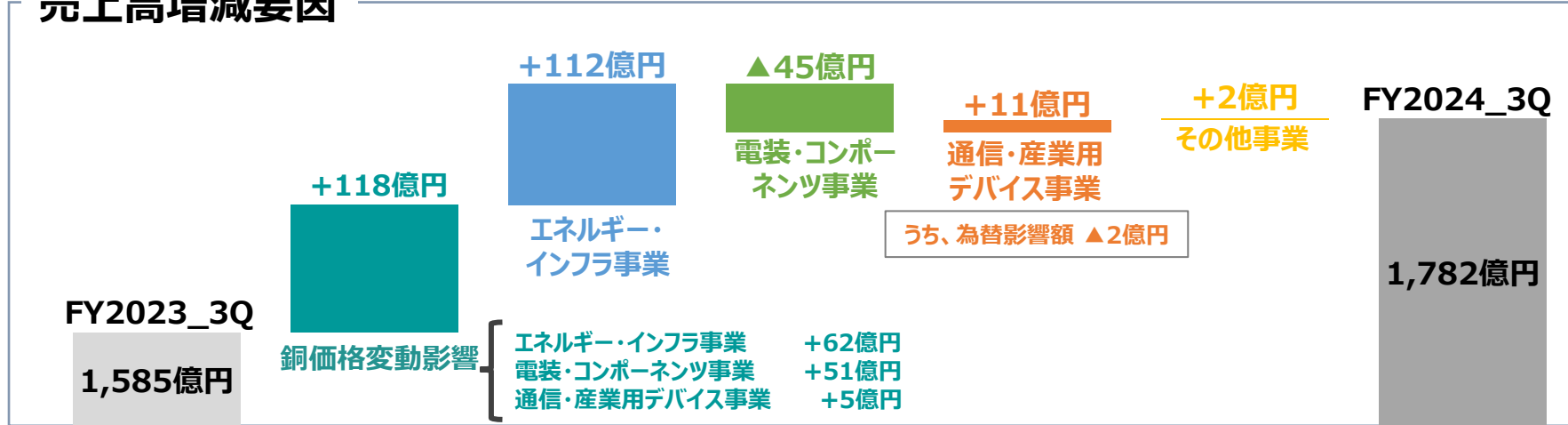
営業利益

(単位：億円)

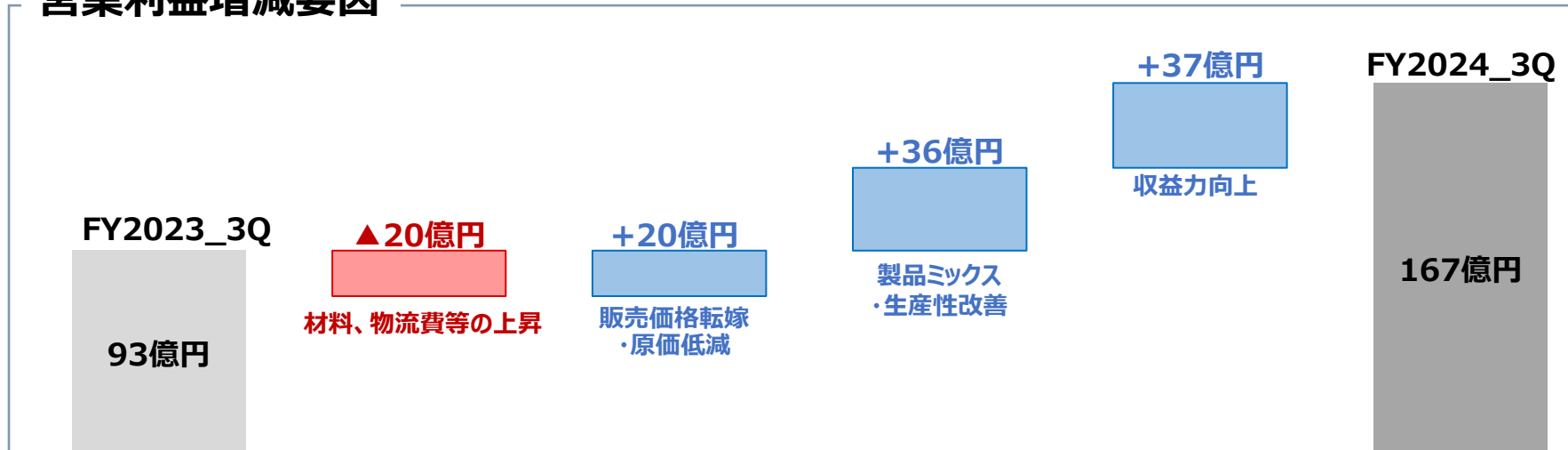


2024年度 第3四半期 増減要因（前年同期比）

売上高増減要因



営業利益増減要因



【増減要因】

1. 売上高
期初想定の国内建設関連向け需要反動減もなく、エネルギー・インフラ事業好調により、**前年同期比増収。**

2. 営業利益
原材料価格、物流費の上昇については、販売価格転嫁と原価低減でカバー。各種収益改善施策の実行と、好調な電力インフラ向け需要増により**前年同期比大幅増益。**

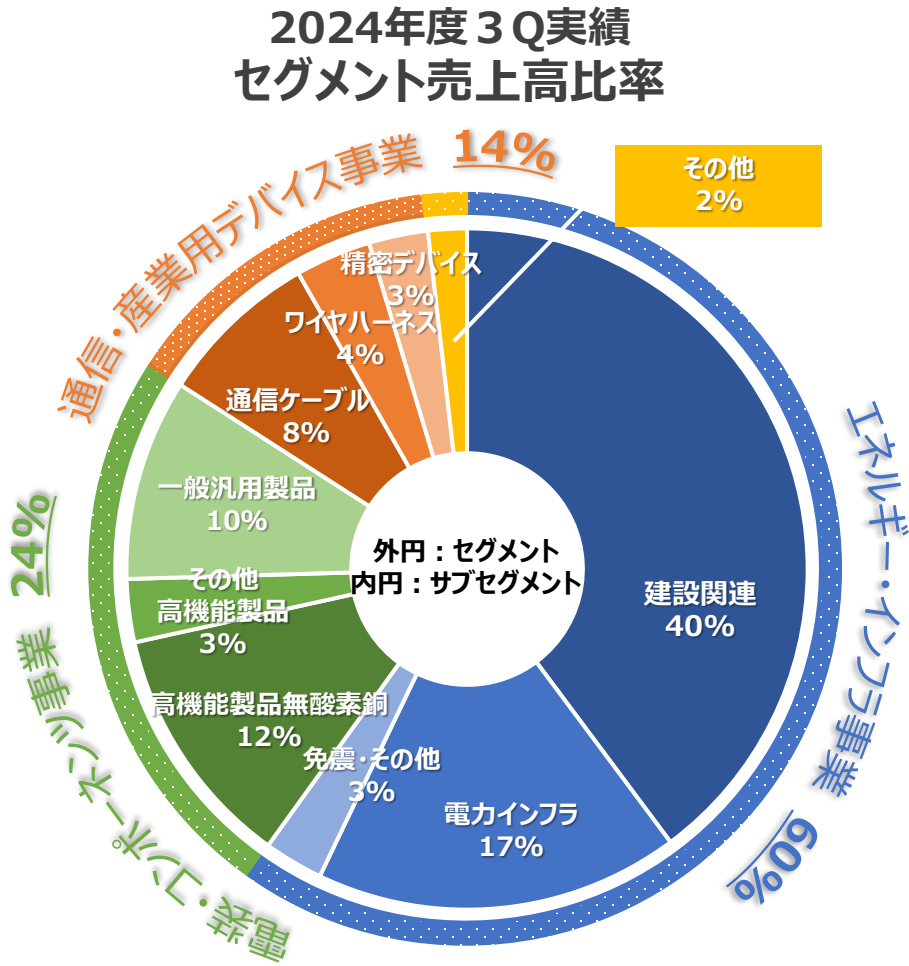
【今後の取り組み】

旺盛な需要に伴う出荷増に備えて適正な在庫を確保。

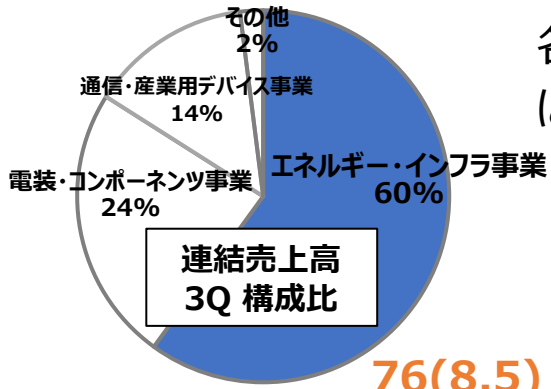
2024年度 第3四半期 セグメント業績

エネルギー・インフラ事業は、堅調な建設向け需要と、電力インフラ事業における旺盛な工事および電力機器への需要増により**過去最高益を更新**。**通信・産業用デバイス事業は、**家電向けワイヤハーネス需要が低迷も、堅調な通信ケーブル需要と精密デバイスの収益改善効果により**前年同期比大幅に利益率が改善**。

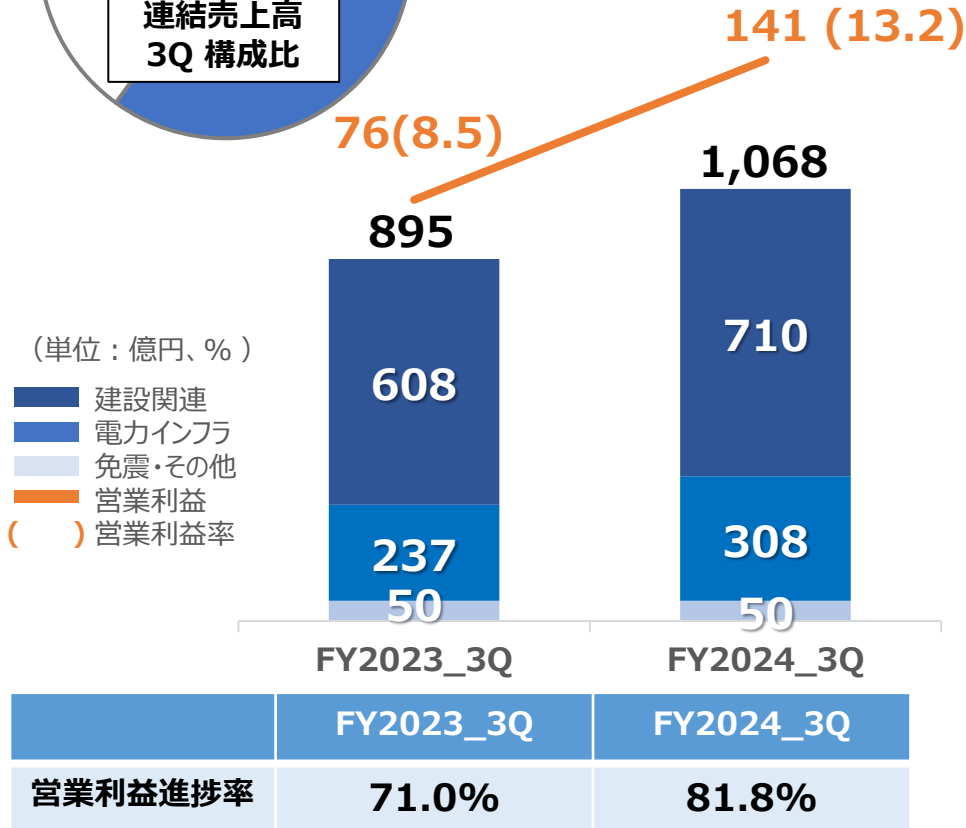
		2023年度3Q 実績		2024年度3Q 実績	
(単位：億円)		売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
【好調】	エネルギー・インフラ事業	895	76 (8.5%)	1,068	141 (13.2%)
【前年並】	電装・コンポーネンツ事業	424	14 (3.3%)	431	14 (3.2%)
【堅調】	通信・産業用デバイス事業	235	10 (4.1%)	251	20 (8.1%)
●	その他	31	1 (1.6%)	33	2 (6.1%)
合計		1,585	93 (5.9%)	1,782	167 (9.3%)



2024年度 第3四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業



各種収益改善施策の効果に加え、電力インフラ事業での旺盛な工事および電力機器への需要増により、**前年同期比増収（19.4%増）・大幅増益（85.3%増）**。



3Q業績（好調）の要因

“好調”

建設

- ・原材料の価格高騰等を織り込んだ販売価格見直し
- ・DX推進や各種生産性向上による収益改善

“好調”

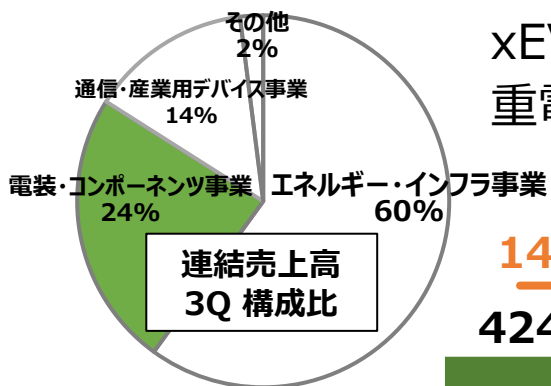
電力

- ・電力会社のレベニューキャップ対応案件の増加
- ・工事平準化に伴う収益改善は継続も3Qは案件増加
- ・製品優位性など付加価値を活かした価格改善効果
- ・増産投資効果による電力機器の出荷増加

今後の戦略

旺盛な電力インフラ需要を取り込むべく、施工人員、製造、保守含め、中計人員計画より更に増員を予定

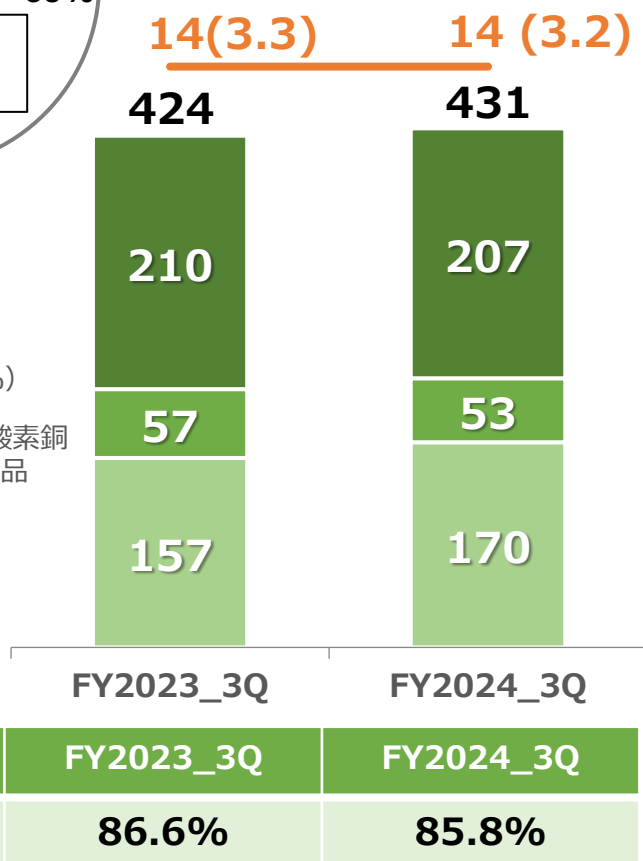
2024年度 第3四半期 セグメント業績 電装・コンポーネンツ事業



xEV向けは、一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止と中国での販売不振の影響を受け低調。
重電向け一般汎用巻線は堅調に推移するも、**前年同期比増収（1.5%増）・減益（2.7%減）**。

(単位：億円、%)

- 高機能製品無酸素銅
- その他高機能製品
- 一般汎用製品
- 営業利益
- 営業利益率



3Q業績（前年並）の要因

MiDIP®

- 一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止による調整局面

平角巻線

- 欧州ハイブリッド向けは順調も、調整局面

ヒータ線

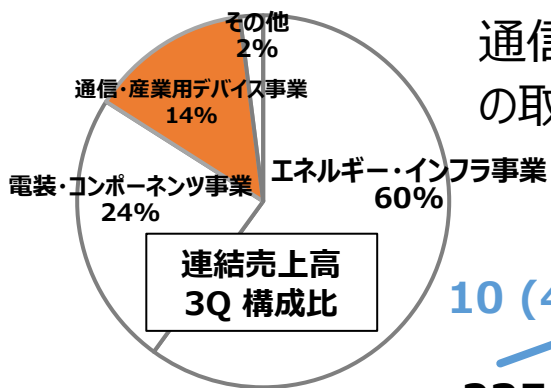
- 一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止と中国での販売不振の影響を受ける

今後の戦略

川下戦略を加速し、高付加価値製品の販売を拡充（半導体、ロボット向け等）

※MiDIP®は左記高機能製品無酸素銅に含まれる戦略製品。また、平角巻線・ヒータ線は、左記その他高機能製品に含まれる戦略製品。

2024年度 第3四半期 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業



通信ケーブルは、データセンターを含む建設関連向けとADAS向け需要が堅調に推移。ローラも、収益改善の取り組み効果に加え需要改善により、**前年同期比増収（6.7%増）・大幅増益（109.7%増）**。

3Q業績（堅調）の要因

通信

・データセンター向け堅調。首都圏再開発、大阪万博、再エネ案件も需要継続。好調な市況を背景に主力製品および新製品の売上拡大が寄与

ワイヤハーネス

・日系家電メーカーの国内および中国での販売不振の影響を受ける

ローラ

・昨年からの収益改善の取り組み効果に加え、個人、オフィス、産業向けの需要回復

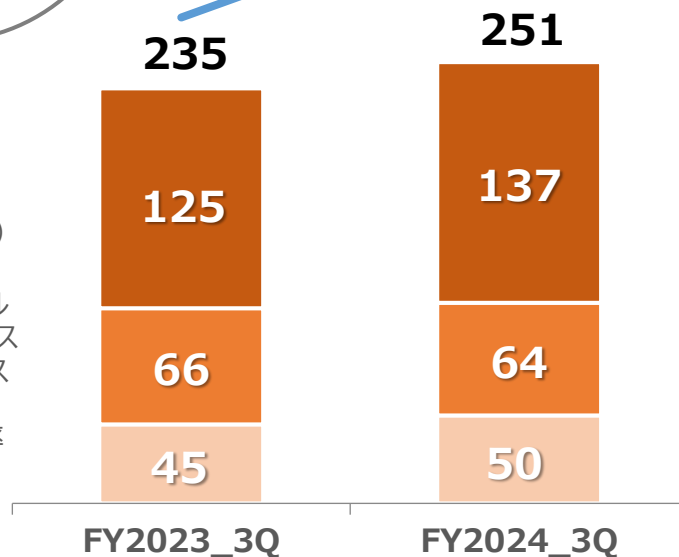
今後の戦略

FLANTEC®ラインナップ増強による拡販（ADAS向け高速通信ケーブル等）とe-Ribbon®の拡販

（単位：億円、％）

通信ケーブル
ワイヤハーネス
精密デバイス
営業利益
() 営業利益率

20 (8.1)
10 (4.1)



	FY2023_3Q	FY2024_3Q
営業利益進捗率	70.6%	73.0%

※ローラは左記精密デバイスに含まれる製品。

2. 中期経営計画の数値目標の見直し

中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024

2026年度計画見直し（連結）

事業環境変化を織り込み2024年5月公表の中期経営計画ローリングプランの最終年度の目標値を**アップサイドに見直し**。

		2024年5月公表		今回見直し	
		FY2026 (目標)		FY2026 (目標)	
収益性	営業利益	170億円	➡	240億円	+ 70億円
	ROE	14%以上		14%以上	
効率性	ROIC	10%以上		10%以上	
	配当金 (配当性向/DOE)	150円以上 (35%以上/4%以上)		180円 (35%以上/4%以上)	+ 30円
株主還元	DEレシオ	30～50%		30～50%	
	純資産	930億円		1000億円	+ 70億円
安定性					

中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024

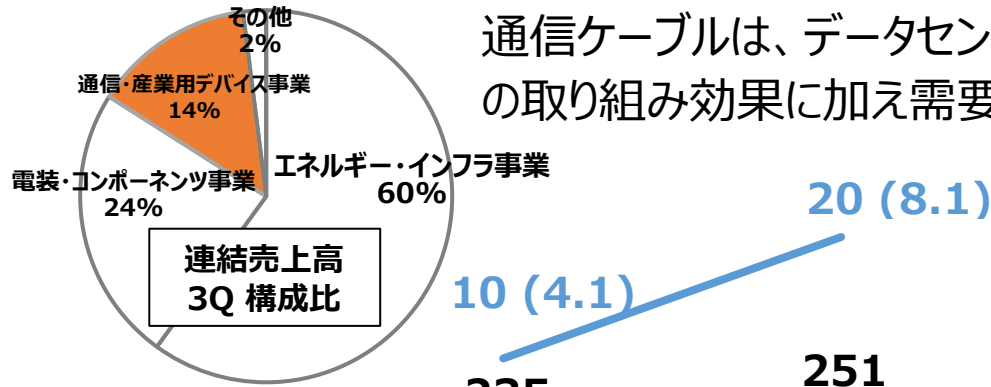
2026年度計画見直し（セグメント別）

(単位：億円、%)			2024年5月公表 FY2026（目標）	今回見直し FY2026（目標）	増減	見直しのポイント
エネルギー・インフラ事業	売上高	1,240	1,450	210		■ 事業環境変化 建設：高位安定で需要継続。 電力：国策を背景に、高経年設備の更新需要、再エネや、データセンター向けの需要が増加。競合の撤退、工事の平準化など追い風が続く。 ■ 打ち手 建設：キャッシュカウ最大化。 電力：さらなる増産投資約20億円、施工力増強。
	営業利益	112	188	76		
	営業利益率	9.0%	13.0%	4.0%		
電装・コンポーネンツ事業	売上高	730	590	▲140		■ 事業環境変化 高機能製品：xEVの普及は後ろ倒し。 ■ 打ち手 高機能製品：川下戦略へのシフトを強化・促進。
	営業利益	26	20	▲6		
	営業利益率	3.6%	3.4%	▲0.2%		
通信・産業用デバイス事業	売上高	360	360	-		■ 事業環境変化 通信：データセンター市場における需要が旺盛。 ワイヤハーネス：日系家電メーカー向け需要減少。 ■ 打ち手 通信：FLANTEC®とe-Ribbon®のさらなる拡販。 ワイヤハーネス：車載分野への展開加速。
	営業利益	35	35	-		
	営業利益率	9.7%	9.7%	-		

3. 通信・産業用デバイス事業の成長戦略

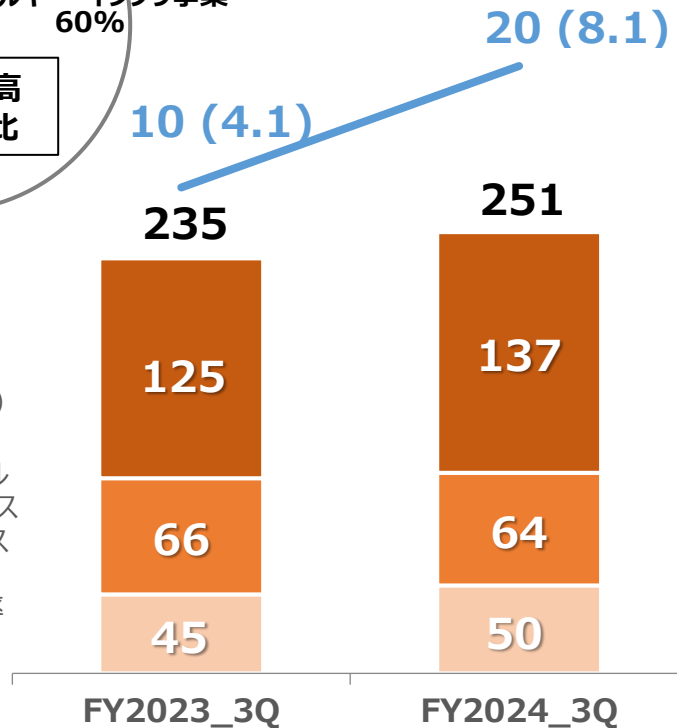
2024年度 第3四半期 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業

通信ケーブルは、データセンターを含む建設関連向けとADAS向け需要が堅調に推移。ローラも、収益改善の取り組み効果に加え需要改善により、**前年同期比増収（6.7%増）・大幅増益（109.7%増）**。



(単位：億円、%)

■ 通信ケーブル
■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス
■ 営業利益
() 営業利益率



	FY2023_3Q	FY2024_3Q
営業利益進捗率	70.6%	73.0%

3Q業績（堅調）の要因

通信

・データセンター向け堅調。首都圏再開発、大阪万博、再エネ案件も需要継続。好調な市況を背景に主力製品および新製品の売上拡大が寄与

ワイヤハーネス

・日系家電メーカーの国内および中国での販売不振の影響を受ける

ローラ

・昨年からの収益改善の取り組み効果に加え、個人、オフィス、産業向けの需要回復

今後の戦略

FLANTEC®ラインナップ増強による拡販（ADAS向け高速通信ケーブル等）とe-Ribbon®の拡販

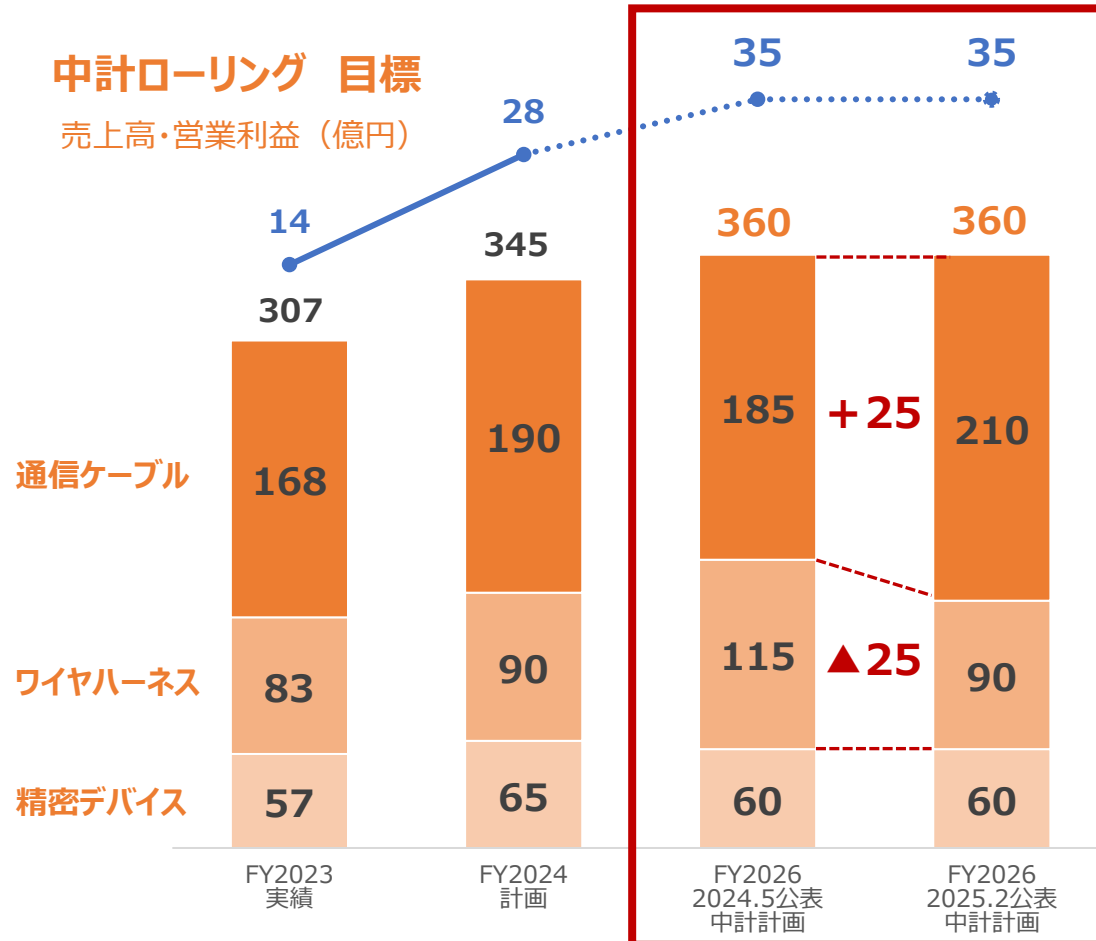
※ローラは左記精密デバイスに含まれる製品。

ローリングプラン2024 通信・産業用デバイス事業の成長戦略

日系家電メーカーのプレゼンス低下によりワイヤハーネス事業の計画は下方修正も、重要旺盛な通信ケーブル事業の計画はアップサイドに見直し。

中計ローリング 目標

売上高・営業利益（億円）



事業
環境

打ち手

設備
投資

（増産・更新投資）

通信

・データセンター市場における需要が旺盛。

ワイヤ
ハーネス

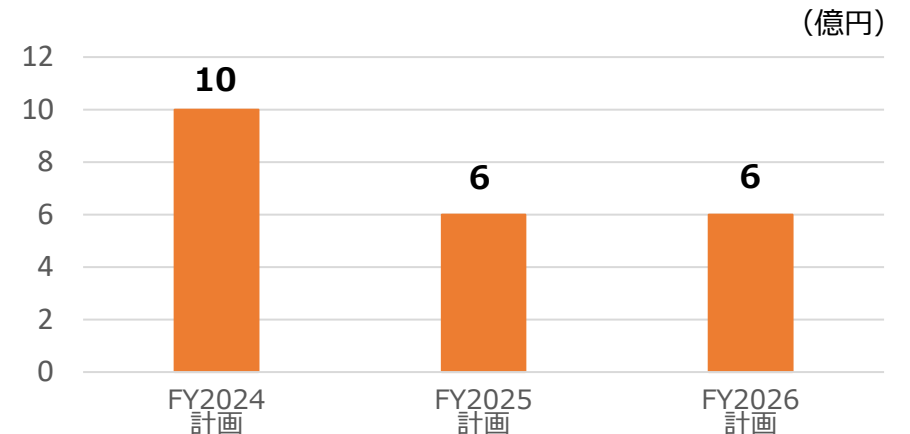
・日系家電メーカー向け需要が減少。

通信

・**FLANTEC®とe-Ribbon®のさらなる拡販。**

ワイヤ
ハーネス

・車載分野への展開加速。



ローリングプラン2024

通信ケーブル事業のFLANTEC®の成長戦略

売上高CAGR8%(FY2024-FY2026見込み)、国内オフィス向けシェア約4割のLANケーブルブランド**FLANTEC®**の成長戦略。



“高速”かつ“高信頼”で競争優位性が高いLANケーブル FLANTEC®戦略

データセンターやオフィス向けは、デジタル化・高速化で拡大成長。さらに産業用市場がEthernet化へ移行拡大。

事業成長に向けた市場変化ドライバー

クラウド需要増による

データセンタ市場の拡大



次世代無線通信の高速化

WiFi6・WiFi7の導入・拡大



GIGAスクール構想の第2フェーズ

NEXT GIGAの構築



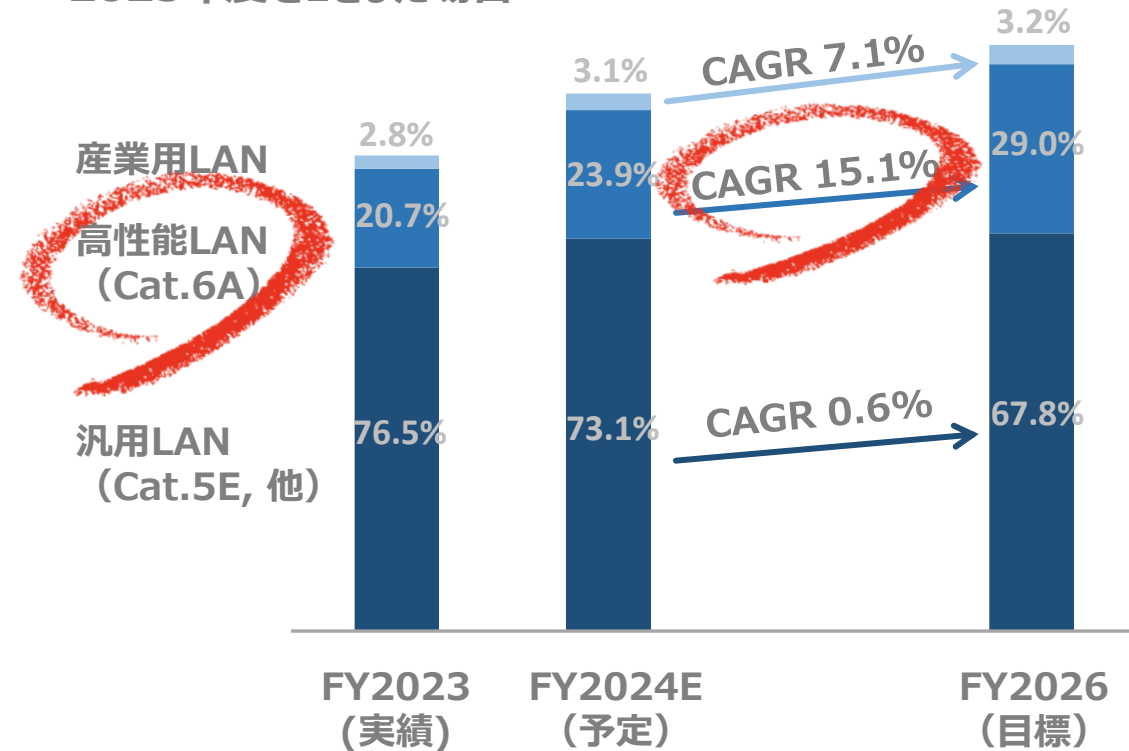
IoT・M2M・画像センシング等の活用による

スマートファクトリの拡大



売上高推移

2023年度を1とした場合

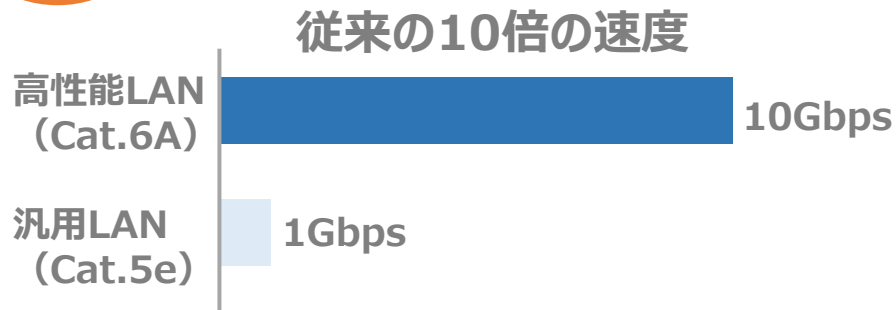


“高速”かつ“高信頼”で競争優位性が高いLANケーブル FLANTEC®戦略

FLANTEC®の強み

速度
10倍

AI、IoT活用促進による通信容量増大に対応



シェア
約40%

国内トップシェアのブランド力

マルチ
パーパス

オフィスからデータセンター、工場まで幅広い領域で活躍

FLANTEC®の活躍シーン

高速化し、より安全性が求められる様々なシーンで活躍

FLANTEC®
*Hi-Speed
Industry*



データセンター機器間配線



パッチコード



オフィス配線



産業用LAN



工場内配線

車載高速通信市場への参入・拡大を促進するFLANTEC®戦略

先進安全運転支援システムに不可欠な**車載カメラ市場は今後も成長**を続け、データ情報を伝達する**車載ネットワークも高速化の流れ**が予想される。**当社のターゲット市場は今後も拡大傾向が続く見込み**。

事業成長に向けた市場変化ドライバー

自動ブレーキとバックカメラの装着が義務化

道路運送車両の保安基準改正



法規制

モビリティの安全性向上

全方位モニターの標準装備



安全性

衝突事故での死亡率が大幅に低下

安全性向上による購買意欲増



購買意欲

先進安全運転支援システムの高速化・高性能化

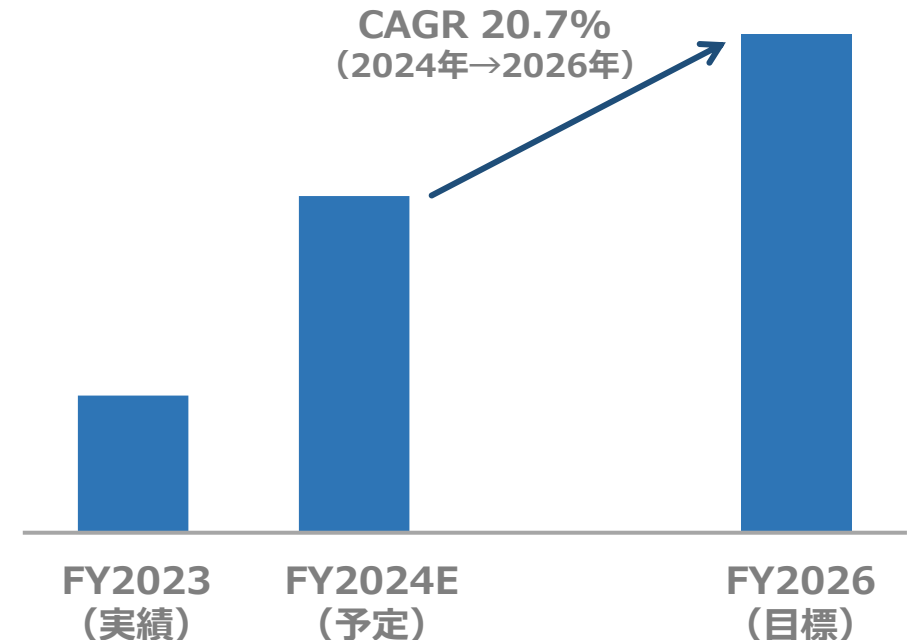
車載ネットワークのEthernet化



技術進化

売上高推移

2023年度を1とした場合



車載高速通信市場への参入・拡大を促進するFLANTEC®戦略



車載カメラなどの画像伝送やECU間的高速データ伝送に適したソリューションを提供。
先進運転支援システムを実現する通信ネットワーク環境に貢献。

製品の強み

高速
伝送

車載カメラ映像を**瞬時**に送信
安心ドライブをサポート

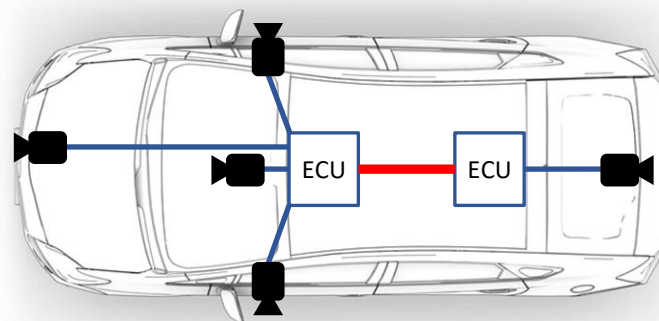
耐ノイズ
対策

車載カメラ映像を**鮮明**に送信
危険の見落としをゼロに

環境
適合性

多様な**車載環境**に対応
どんなシーンでも安心の性能

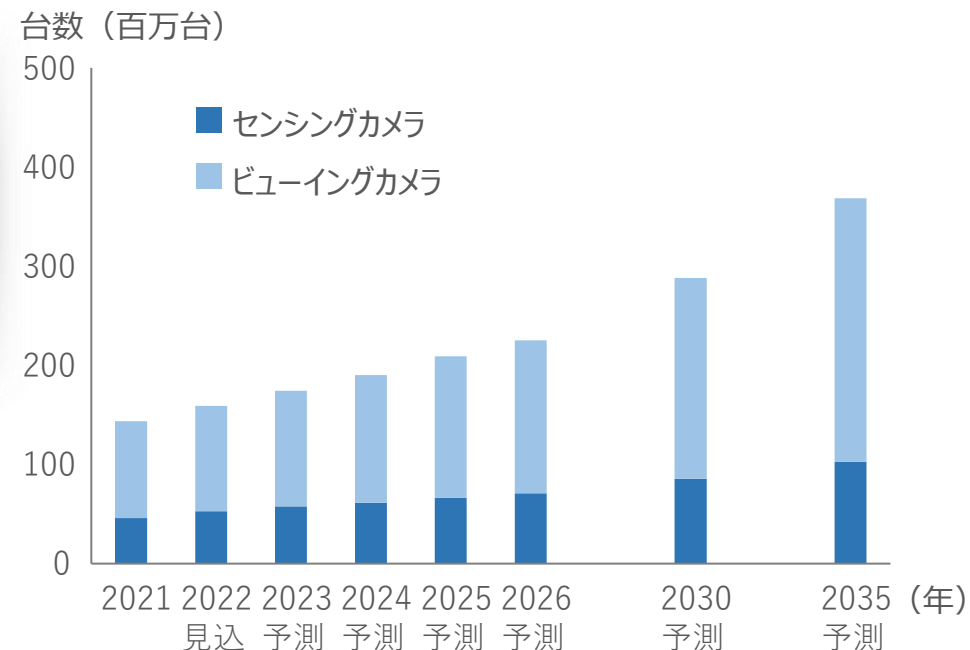
車載ネットワーク配線



 : 車載カメラ
 : 車載カメラ-ECU間ケーブル
 : ECU-ECU間ケーブル

※ ECU : Electronic Control Unit

車載カメラ市場



引用元：株式会社富士キメラ総研
「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査2023(上巻)」

e-Ribbon®の海外パートナーシップ戦略

生成AIの進化で高まるデータセンター需要と通信インフラの強靱化。
拡大する光通信インフラ需要を海外パートナーとともに、当社保有のトップクラスの技術・生産性で補足。

事業成長に向けた市場変化ドライバー

生成AI需要増による

データセンタ市場の拡大



米国BEAD資金投入・欧州デジタルデバイド解消

欧米FTTH市場の進展



人手不足・人件費高騰による

高機能ケーブル需要の増加



米国からメキシコへの関税強化などによる

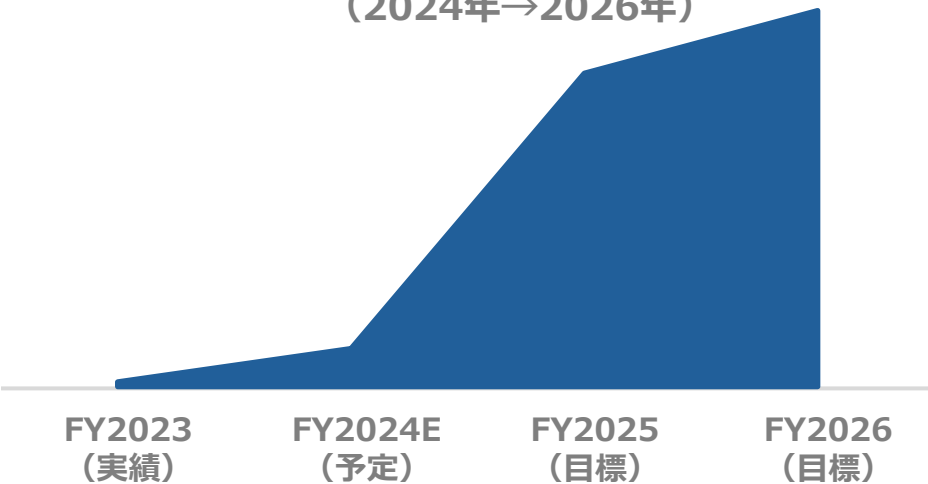
米国への輸出機会拡大



売上高推移

2023年度を1とした場合

CAGR 216%
(2024年→2026年)



年度	FY2023	FY2024E	FY2025	FY2026
想定パートナー社	3社	4社	7社	8社

e-Ribbon®の海外パートナーシップ戦略

当社保有のトップクラスの技術・生産性を武器に、世界中どここのパートナーとも組むことができるビジネスモデルを展開。
オープン・クローズ戦略を駆使し、パートナーとの柔軟な投資戦略を展開し、利益成長スピードを加速していく。

製品の強み

技術優位性

10年以上の技術蓄積
世界で5社のみ保有する量産技術

グローバル実績

国内・欧米市場で実証済の実績と高評価
2012年から国内販売・カスタマイズ対応

技術力

施工性の向上とコストメリットを実現
細径で軽量、そして高密度を実現した
世界トップクラスの技術

ビジネスモデル

材料

製品カスタマイズ

海外パートナー

最終ユーザー

汎用ファイバ
細径ファイバ
パートナーファイバ



SWCC株式会社

e-Ribbon®

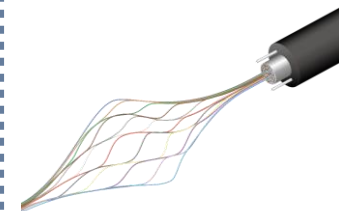
提供価値

高密度

簡単

コスト競争力

高密度ケーブル
超多心ケーブル
細径空気圧送ケーブル
コネクタ付ケーブル など



データセンター
市場

欧米
テレコム市場

オープン領域

- ・多様なニーズに対応
- ・カスタマイズ可能
- ・技術サポート

クローズ領域

- ・リボン技術の知的財産
- ・リボン量産ノウハウ



SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。
このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。
なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。